

あきる野・檜原地域公共交通計画（素案） （骨子）

令和5年10月13日

1. はじめに | 計画作成の趣旨、計画の区域、計画の期間
2. 地域の現状 | 地勢・地理、社会経済状況
3. 上位・関連計画の整理 | 総合計画、都市計画マスタープラン、その他
4. 地域旅客運送サービスの現状と課題 | 地域旅客運送サービスの役割、整備・利用状況、課題
5. 基本方針 | 取組の方向性
6. 計画の目標・施策 | 計画期間内に達成すべき目標値、施策
7. 計画達成状況の評価 | 評価計画、見直し方針

1. はじめに

1-1. 計画作成の趣旨

- ・当地域では、東京都が「生活交通確保維持計画」を策定し、西東京バス「数馬線」「藤倉線」の2系統に対し、国と都で運行支援を実施して運行している。（地域間幹線系統確保維持費国庫補助金）
- ・当系統沿線では、人口減少・高齢化の進行により需要が減少し、公共交通の維持が重要な課題となっている。
- ・一方、国は、活性化再生法の改正に合わせ、地域公共交通計画の作成及び計画における補助系統等の位置付けを補助要件化した。（計画制度と補助制度の連動化）
- ・そのため、沿線地域を対象に、東京都、関係自治体、事業者等と連携し、地域公共交通計画を策定する。

1-2. 計画区域

- ・あきる野市五日市地域、小宮・戸倉地域（あきる野市都市計画マスタープランを基に設定）
- ・檜原村全域

1-3. 計画の期間

令和6年度（2024年度）

～令和10年度（2028年度）



2. 地域の現状

2-1. あきる野市・檜原村の地勢・地理、社会経済状況

地勢

・対象地域は山間部が多くを占め、更にその大半が秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、東京、首都圏の貴重な憩いの場として、多くの観光客を迎え観光産業が展開している。

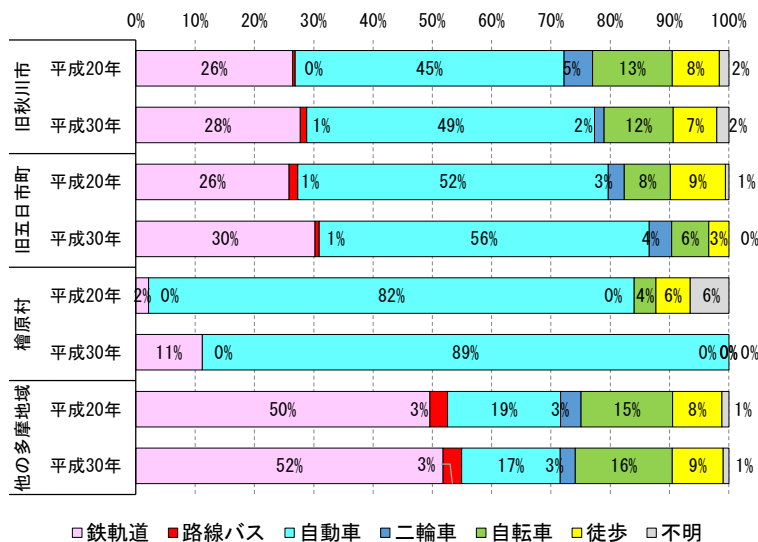
人口

・人口減少や高齢化に伴い、鉄道・バス路線の利用が減少している。移住定住対策により人口減少の度合いが鈍化する効果もみられるが、今後の人口減少・高齢化により更に利用の減少が予想される。

交通流動

・対象地域における日常の移動では、市町村内のほか市町村外への移動が多い。
 ・対象地域では、自動車为主要な移動手段となっており、公共交通の分担率は低い。運転免許返納者のタクシー利用もみられる。

【交通手段分担率（通勤目的）】

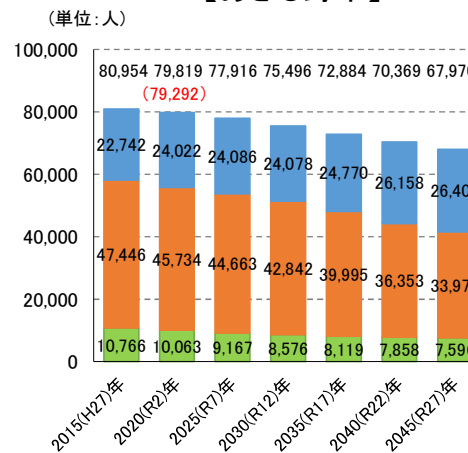


注「私事目的」は、参考資料(p20)を参照

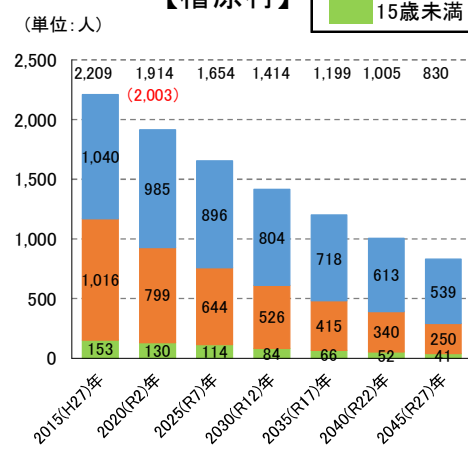
資料) 平成30年東京都市圏パーソントリップ調査

【人口の推移】

【あきる野市】

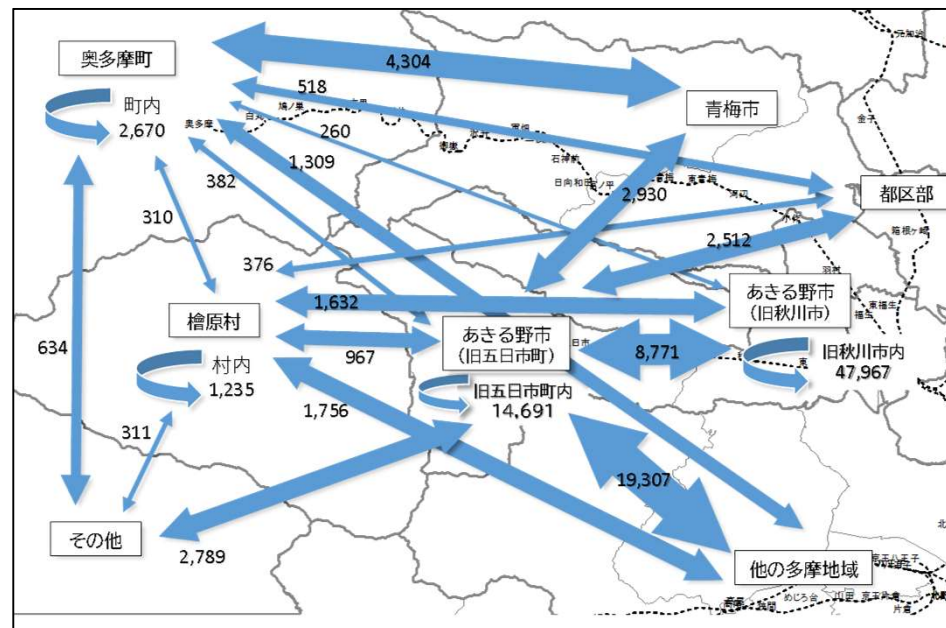


【檜原村】



資料) 『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』
 (国立社会保障・人口問題研究所) 2020年の(赤字)は実績値

【交通流動状況（全目的）】



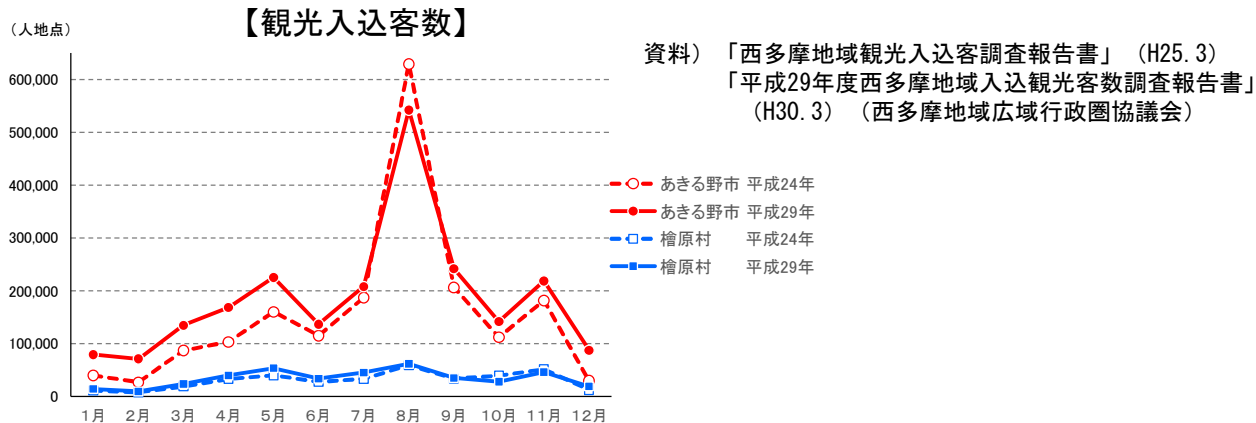
資料) 平成30年東京都市圏パーソントリップ調査

※ここでの記載に関連する図表は、参考資料(p20)も参照

2. 地域の現状

観光客

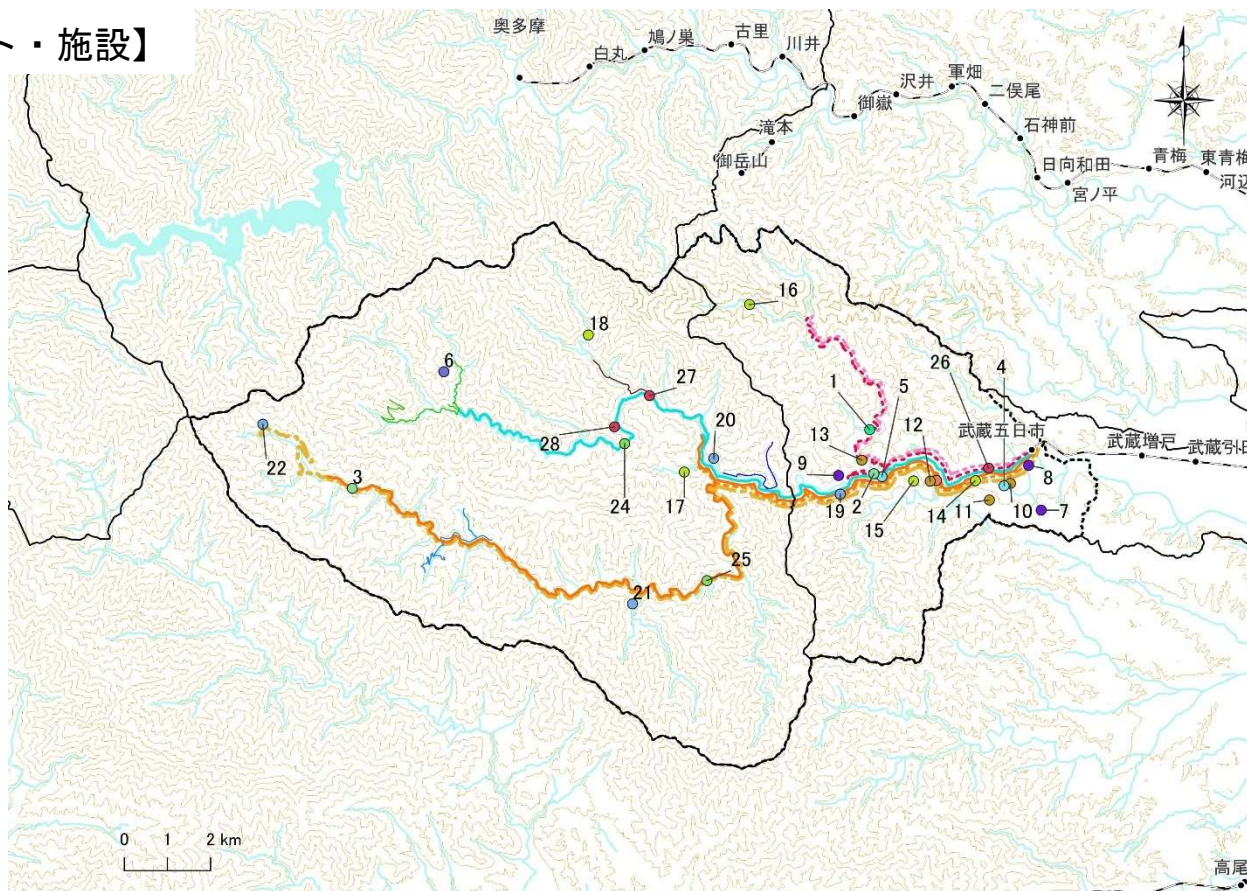
- ・観光入込客は、8月がピークで、5,11月も比較的多いが、冬季では少なく季節変動が大きい。
- ・対象地域では、豊かな自然に囲まれた地域特性を活かし、様々な観光スポット・施設がみられる。



【主な観光スポット・施設】

【凡例】

- アウトドア
- 温泉
- 景観
- 建築
- 公園
- 寺社仏閣
- 自然
- 体験・学習
- 滞在
- 直売・産直
- 登山
- 博物館等
- 河川・湖
- 鉄道
- 行政界



区分	NO.	観光資源名
アウトドア	1	秋川国際マス釣場
温泉	2	秋川渓谷瀬音の湯
	3	数馬の湯
景観	4	小和田橋
	5	石舟橋
建築	6	小林家住宅
	7	都立小峰公園
公園	8	秋川橋河川公園
	9	乙津花の里
寺社仏閣	10	阿伎留神社
	11	広徳寺
	12	光厳寺
	13	徳雲院
自然	14	岩瀬峡
	15	城山
	16	大岳鍾乳洞
	17	払沢の滝
	18	神戸岩
体験・学習	19	あきる野ふるさと工房
	20	ふるさとの森
	21	教育の森
	22	檜原都民の森
滞在	23	戸倉しろやまテラス
	24	ひのはらファクトリー
直売・産直	25	やまぶき屋
	26	五日市郷土館
博物館等	27	郷土資料館
	28	檜原森のおもちゃ美術館

資料)「秋川渓谷総合マップ」「檜原村ガイドマップ」に記載された主要な観光スポット・施設を類型化して表示

3. 上位・関連計画の整理

○ 東京都、あきる野市、檜原村の上位・関連計画

1) 総合計画

- ・利用しやすい公共交通（ダイヤ、所要時間、情報提供、交通結節点整備等）
- ・交通不便地域や高齢者等の移動困難者の移動支援
- ・バス路線の維持・確保、利用増のための取組み

「未来の東京」戦略version up 2022(東京都)
新しい多摩の振興プラン(東京都)
東京都過疎地域持続的発展計画(東京都)
第2次あきる野市総合計画
檜原村第5次総合計画(後期)
檜原村 第2期人口ビジョン総合戦略
檜原村過疎地域持続発展計画

2) 都市計画・まちづくり

- ・多様な交通モードと先端技術との組合せによる、誰もが移動しやすい交通環境の充実
- ・生活中心地や拠点集落への居住推進等
- ・公共交通の利便性向上

都市づくりのグランドデザイン(東京都)
都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(東京都)
集約型の地域構造への再編に向けた指針(東京都)
あきる野市都市計画マスタープラン

3) 公共交通

- ・幹線系統の維持・確保に向けた課題解決、ラストワンマイルの移動手段の充実
- ・地域の実情や利用者の立場に応じた利用しやすい公共交通
- ・路線維持に向けた利用者側（住民）の協力

東京における地域公共交通の基本方針、及び未来の公共交通子どもアンケート(東京都)
あきる野市公共交通のあり方検討報告書
あきる野市の公共交通に関する市民アンケート調査結果

4) 観光振興

- ・交通インフラの充実

PRIME 観光都市・東京(東京都)
払沢の滝周辺整備改定計画(檜原村)

5) 福祉

- ・障がい者等の移動支援（割引、デマンド交通、福祉有償運送への支援等）
- ・誰もが利用しやすい交通機関の整備推進、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり
- ・子育てを支援する環境整備（公共交通のバリアフリー化）

あきる野市地域保健福祉計画
第8期あきる野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
あきる野市障がい者福祉計画
あきる野市子ども・子育て支援総合計画
あきる野市次世代育成支援行動計画
檜原村地域福祉計画【第4期】
第8期檜原村高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
檜原村障害者計画 第6期檜原村障害福祉計画 第2期檜原村障害児福祉計画

6) 環境

- ・地球環境改善のため、公共交通利便性向上による公共交通利用転換、環境対応車両導入等

第二次あきる野市環境基本計画 改訂版
第五次あきる野市地球温暖化対策実行計画
第2次檜原村地球温暖化対策実行計画

7) 防災

- ・災害時の地域公共交通の確保

あきる野市地域防災計画
あきる野市国土強靱化地域計画
檜原村国土強靱化地域計画

4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-1. あきる野市・檜原村の地域旅客運送サービスの現状

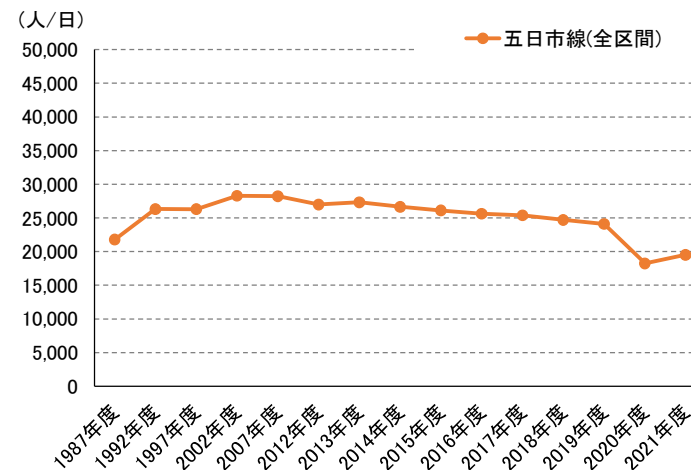
公共交通網 各種輸送 サービスの 取組み

- ・対象地域には、JR五日市線が乗り入れている。
- ・対象地域のバス路線は、武蔵五日市駅を起点に設定されており、このうち「五10・五18系統」の2系統は市町村を跨ぐ地域間幹線として基幹的な公共交通軸を形成し、住民の通勤・通学・通院等や観光の移動手段として重要な社会基盤となっている。
- ・バス路線は、概ね、鉄道との乗継ぎを考慮した運行ダイヤの設定がなされている。
- ・あきる野市では、交通空白地域の一部（盆堀地区）において、市と地域住民の協働による地域交通を運行し、交通手段の確保を行っている。
- ・檜原村ではデマンドバスやまびこが運行され、路線バスに接続し交通空白地域の移動ニーズに対応している。
- ・檜原村では、路線バスと物流事業者が連携した「貨客混載」の取組みが始まっている。
- ・各市村におけるその他の移動サービスとして、高齢者等の福祉輸送や観光輸送が実施されている。

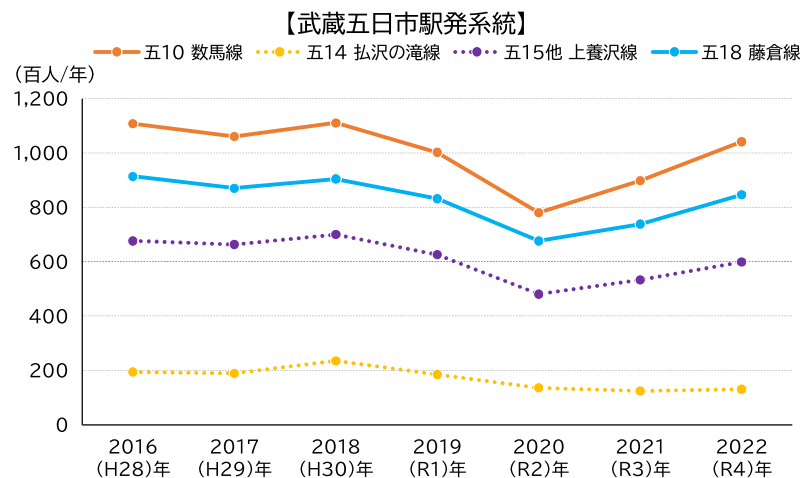
公共交通の 需要 利用特性

- ・鉄道の利用者数は、沿線人口の減少を背景に、徐々に減少しつつある。
- ・路線バス利用者数はコロナ禍の影響もあり減少傾向である。現在、コロナ前の水準には戻っていない。
- ・バス利用は、新緑、夏休み、紅葉の時期に多く、観光・レジャー・登山客の多さが伺える。
- ・登山口の最寄りバス停の利用が多く冬季でも利用がみられる。

JR五日市線利用者数の推移



バス路線利用者数の推移



※ここでの記載に関連する図表は、参考資料（p23）も参照

4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-2. エリア内における地域公共交通の位置づけと役割分担



※やまびこ(藤倉線)は今後運行見直し予定

4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-2. エリア内における地域公共交通の位置づけと役割分担

位置づけ	系統		役割	確保・維持策
広域幹線	鉄道	J R 五日市線	あきる野市の交流拠点で、地域内幹線等が集中し交通結節点である武蔵五日市駅から立川や都心等への広域輸送を担う。	交通事業者と連携した取組みにより、現状以上の需要を確保
地域内幹線	乗合バス	五10 数馬線 (五里・五滝10含む)	武蔵五日市駅を発着地とし、あきる野市西部並びに檜原村内の主要な地域を連絡する。	地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し持続可能な運行を目指す
	乗合バス	五18 藤倉線 (五里18含む)		
	乗合バス	五14 払沢の滝線		
支線	乗合バス	五15/檜52 上養沢線	武蔵五日市駅を発着地とし、あきる野市西部並びに檜原村内の地域を連絡する。	交通事業者や関係者と連携した取組みにより、住民の啓発や観光でのPRにより、現状以上の観光需要を確保
	乗合バス (デマンドバス)	やまびこ※ (笛吹・上平線、神戸線、 泉沢・日向線、藤倉線)	檜原村内で路線バスルートから離れた地域で、最寄りバス停から各地域へ連絡する。	事業主体と連携し、観光需要の取り込みによる現状以上の需要を確保

注) 複数市町村にまたがる系統を「幹線(地域内幹線)」、1市町村内の系統を「支線」とした。

※やまびこ(藤倉線)は今後運行見直し予定

位置づけ	系統		役割
その他	乗合バス	急行	武蔵五日市駅を発着地とし、都民の森へ連絡する。
	福祉有償運送サービス (あきる野市)		高齢や障がいなどで移動が困難で、公共交通機関等を利用できない人を対象に、市民の協力を得て病院への送迎を行う。
	高齢者等外出支援サービス (檜原村)		路線バスやデマンドバスの運行がない地域を対象に、受診や買い物等移動支援サービスを提供。
	地域交通		交通空白地域の一部(盆堀地区)において、市と地域住民の協同により運行している。

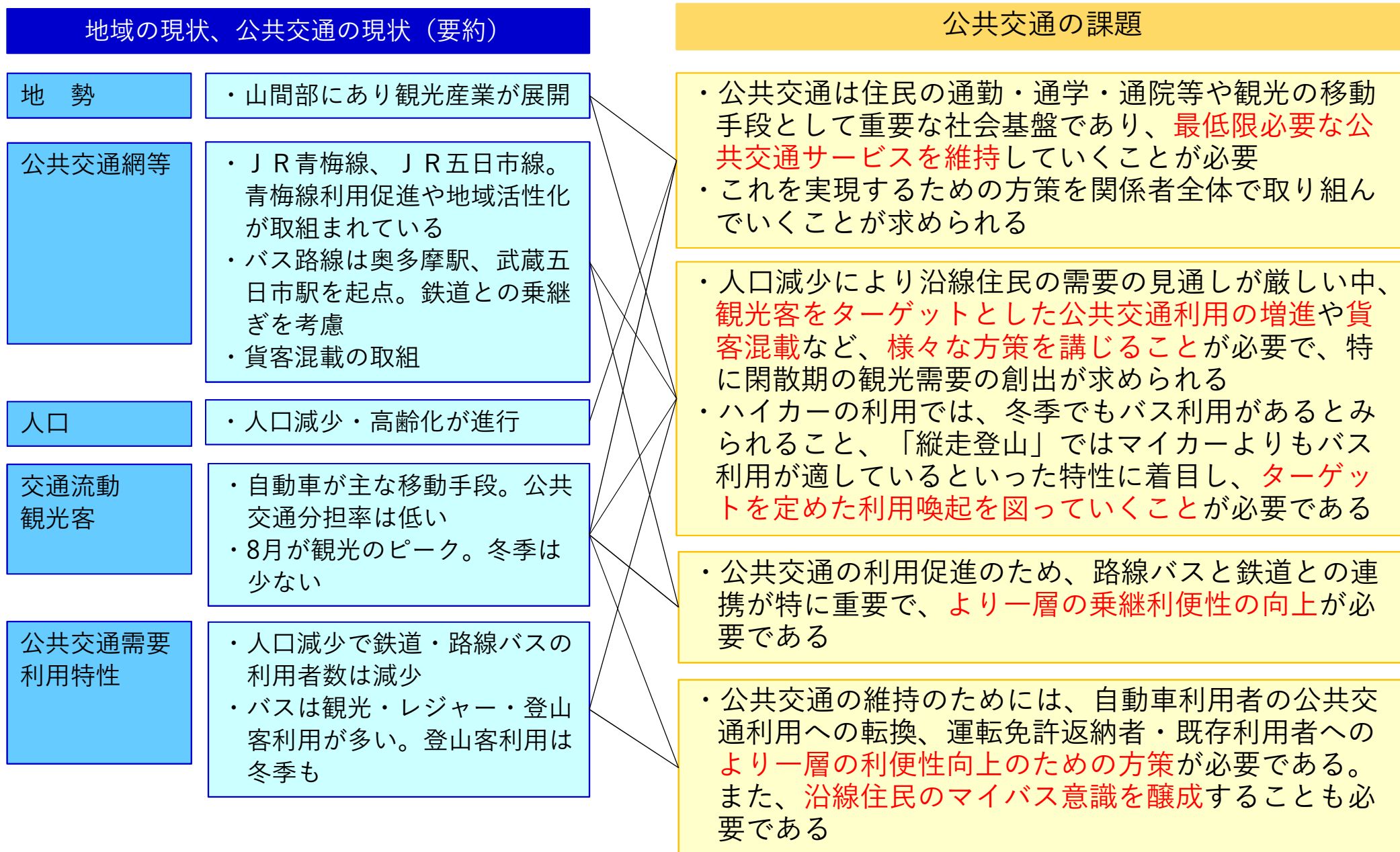
4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-2. エリア内における地域公共交通の位置づけと役割分担

系統	対象地域における補助事業の必要性
五10 数馬線 (オレンジ系統)	<p>あきる野市内・檜原村内の都道33号線及び都道206号線沿いの拠点や主要な観光スポット、登山口を經由し、数馬まで連絡する。通勤通学、買い物、通院等の日常生活行動だけでなく、檜原村営デマンドバスへの連絡、観光目的の主要な移動も担う。</p> <p>起終点の武蔵五日市駅では、JR五日市線等他モードと連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている。</p> <p>一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。</p>
五18 藤倉線 (青系統) 五里18含む	<p>あきる野市内・檜原村内の都道33号線及び都道205号線沿いの拠点や主要な観光スポット、登山口を經由し、藤倉まで連絡する。通勤通学、買い物、通院等の日常生活行動だけでなく、檜原村営デマンドバスへの連絡、観光目的の主要な移動も担う。</p> <p>起終点の武蔵五日市駅では、JR五日市線等他モードと連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている。</p> <p>一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。</p>

4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-3. 西多摩地域の地域旅客運送サービスの課題



4. 地域旅客運送サービスの現状と課題

4-4. あきる野市・檜原村の地域旅客運送サービスの課題

地域の現状、公共交通の現状、上位・関連計画（要約）

公共交通網等	鉄道 バス デマンド その他 貨客混載	<ul style="list-style-type: none"> ・JR五日市線が乗り入れ ・武蔵五日市駅を起点に「五10・五18系統」が地域間幹線として、住民や観光の移動手段として重要な社会基盤に。また、鉄道との乗継ぎを考慮したダイヤ ・檜原村ではデマンドバスにより交通空白地域の移動ニーズに対応 ・高齢者等の福祉輸送や観光輸送が実施 ・貨客混載の取組
人口	人口 高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・高齢化が進行。 ・今後も人口減少・高齢化の進行が予想
交通流動 観光客	交通流動 移動手段 観光需要	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車が主な移動手段。公共交通分担率は低い ・8月が観光のピーク。冬季は少ない
公共交通 需要 利用特性	公共交通需 要 観光需要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少で鉄道・路線バスの利用者数は減少 ・観光シーズン・イベント時に多発する交通渋滞 ・バスは観光・レジャー・登山客利用が多い。
上位計画 関連計画	総合計画 まちづくり 公共交通 観光、福祉、 環境、防災	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい公共交通、移動支援、バス路線維持・確保、ラストワンマイルの充実、利用増の取組み、住民の協力、タクシー運行継続、新たな交通システム検討 ・生活中心地等への居住推進等 ・ユニバーサルデザイン配慮、公共交通利用転換・環境対応車両導入による地球環境改善、災害時の地域公共交通の確保

公共交通の課題

・バスが主要な移動手段であるあきる野市西部(武蔵五日市駅以西)及び檜原村においては、**路線バスが重要な移動手段であり、その維持が必要**である

・各方面からのバス路線が集中し運行本数が多い駅近傍の区間は人口集積が比較的大きく、沿線需要を取り込む可能性のある数少ない地域であり、**沿線住民の潜在的な需要を取り込んでいくことが必要**である

・人口減少が今後とも見込まれる中、**観光需要の取込や貨客混載など取組を通じた路線の維持が必要**である

・交通空白地域の移動手段として、**デマンドバスの運行の維持、新たな交通モードの検討**が求められる

5. 基本方針

公共交通の課題

公共交通は住民の通勤・通学・通院等や観光の移動手段として重要な社会基盤であり、最低限必要な公共交通サービスを維持していくことが必要

- より一層の利便性向上のための方策が必要
- 沿線住民のマイバス意識を醸成
- ターゲットを定めた観光利用喚起

バスが主要な移動手段であるあきる野市西部及び檜原村においては、路線バスが重要な移動手段であり、その維持が必要

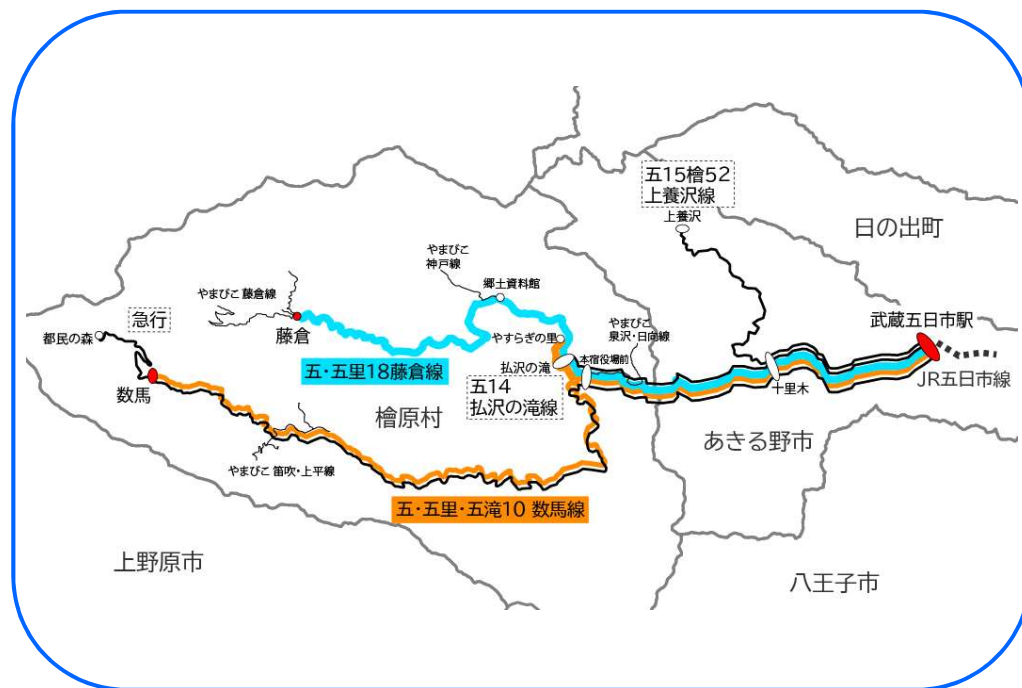
バス路線の運行本数が多い駅近傍の区間は人口集積が比較的大きく、沿線住民の潜在的な需要を取り込んでいくことが必要

人口減少が今後とも見込まれる中、豊富な観光資源を活かした観光需要の取込や様々な利用促進、貨客混載など取組を通じた路線の維持が必要

交通空白地域の移動手段として、デマンドバスの運行の維持、新たな交通モードの検討が求められる

基本方針

路線バス及び地域のニーズを軸とした地域公共交通サービスの維持・確保



※「路線バス」：地域間幹線系統を含むバス路線全てを指す

※「地域のニーズ」：交通空白地域における移動ニーズに対応した交通手段（デマンドバス等フィーダー交通）を指す

6. 計画の目標・施策

6-1.目標

①路線バス運行の維持・確保

住民の生活維持及び観光の移動手段として、最低限必要な路線バス運行の維持・確保を実現するための方策を、関係者全体で取り組んでいく

②交通空白地域における移動手段の確保

交通空白地域において、住民の生活維持に必要な移動ニーズに対応した移動手段について確保・維持していく

③観光振興と連携した公共交通の推進

関係機関と連携し、観光需要の創出・取込のための方策を、関係者全体で取り組んでいく



6-2.施策案

①路線バスの利便性向上に資する取組/新たな取組の推進

- ・路線バス利便性向上施策
- ・住民に対する利用促進施策
- ・新たな取組施策

②交通空白地域における移動手段の確保の取組

- ・檜原村デマンドバス

③観光振興と連携した公共交通事業の取組

- ・観光客の公共交通利用環境の改善施策
- ・観光客に向けたモビリティ・マネジメント施策

6. 計画の目標・施策

【数値指標と目標値】

目標	数値指標	データ取得方法	現況値（令和4年度） ※路線バス年間利用者数・乗降者数は10月～9月の数字で整理	現況値内訳	目標値 （令和8年度(2026年度)）	
①路線バス運行の維持・確保	エリア内地域公共交通（幹線・フィーダー）の年間利用者数	バス事業者・行政保有の乗降データ	292,936人/年 （路線バス）	数馬線 藤倉線	上養沢線 弘沢の滝線	296,000人/年 （路線バス）
	公共交通に係る自治体の財政負担額	普通会計決算	37,989千円/年 （路線バス）	あきる野市 檜原村	14,198千円/年 23,792千円/年	30,000千円/年 （路線バス）
	エリア内地域公共交通（幹線・フィーダー）の収支率	事業者報告書、決算報告書等の資料	51.7%	数馬線 藤倉線	上養沢線 弘沢の滝線	52.7%
	スクールバスの代替利用として最低限必要な便数(あるいは通院)（往復＝1便）	自治体及びバス事業者の通学定期等データ	学校最寄りバス停 弘沢の滝入口 9.0便/日 五日市高校 14.0便/日	数馬線 5.0便/平日 藤倉線 5.0便/平日 上養沢線 4.0便/平日	学校最寄りバス停 弘沢の滝入口 9.0便/日 五日市高校 14.0便/日	
	路線バス情報のオープンデータ化率		なし	—	100%	
②交通空白地域における移動手段の確保	エリア内地域公共交通（檜原村デマンドバス）の年間利用者数	バス事業者・行政保有の乗降データ	1,116人/年	—	1,130人/年	
③観光振興と連携した公共交通の推進	エリア内地域公共交通（幹線・フィーダー）の年間利用者数（再掲）	バス事業者・行政保有の乗降データ	292,936人/年 （路線バス）	数馬線 藤倉線	上養沢線 弘沢の滝線	296,000人/年 （路線バス）
	観光地最寄バス停の乗降者数（路線バス停）	バス事業者保有の乗降データ	99,389人/年	弘沢の滝入口、小沢、夏地、数馬、十里木、秋川溪谷瀬音の湯		100,400人/年
	観光客利用に最低限必要便数（往復＝1便）	バス事業者保有の乗降データ	弘沢の滝入口 10.0便/日（土日祝） 小沢・夏地 各6.0便/日（土日祝） 数馬 6.0便/日（土日祝） 十里木 14.0便/日（土日祝） 瀬音の湯 1.5便/日（土日祝）	—	弘沢の滝入口 10.0便/日（土日祝） 小沢・夏地 各6.0便/日（土日祝） 数馬 6.0便/日（土日祝） 十里木 14.0便/日（土日祝） 瀬音の湯 1.5便/日（土日祝）	

※「公共交通に係る自治体の財政負担額」は四捨五入して表示しているため、現況値と現況値内訳の合計が合わない。

6. 計画の目標・施策

【施策の具体案】

施策分類	施策内容		実施主体
①路線バスの利便性向上に資する取組/新たな取組の推進	路線バスの利便性向上施策	①ニーズに合わせたダイヤ設定 ・学校就学時間に合わせたダイヤ設定 ・覚えやすいダイヤ設定（偶数時30分発等） など	西東京バス
		②JR線との円滑な乗り継ぎ連携 ・運行ダイヤ調整 ・遅延時の出発待機 など	JR、西東京バス
		③交通事業者間の情報連携の推進 ・協議会等における情報共有・意見交換の実施 など	あきる野市・檜原村、JR、西東京バス、タクシー事業者
		④利用者への交通情報伝達性を向上させるため路線バス情報のオープンデータ化を推進 ・Google mapへ正確な交通情報の掲載 など	西東京バス
住民に対する利用促進施策		⑤マイバス意識の醸成のためのモビリティ・マネジメント実施 ・広報誌等による効果的な呼びかけ (住民年間1回利用による収支改善効果の提示、公共交通利用の多面的効果の発信（環境改善に寄与、マイカー年間維持費削減等）) ・免許返納者に対する公共交通利用のPR及び給付金交付等様々な支援の実施	あきる野市・檜原村
			あきる野市・檜原村、西東京バス
新たな取組施策		⑥貨客混載事業の継続	西東京バス
		⑦環境対応車両の導入 ・ハイブリッド車・EV車等の導入と環境改善への寄与のアピール	西東京バス
②交通空白地域における移動手段の確保の取組	檜原村デマンドバス	①住民・観光客に向けた情報発信 ・広報誌等を通じたサービス内容の周知など	檜原村

6. 計画の目標・施策

【施策の具体案】

施策分類	施策内容		実施主体
③観光振興と連携した公共交通事業の取組	観光客の公共交通利用環境の改善施策	①ニーズに合わせたダイヤ設定 ・観光需要に合わせたダイヤ設定	西東京バス
		②行楽シーズン等の臨時便・続行便の運行	西東京バス
		③観光客のマイカー利用抑制のための検討・情報発信 ・パークアンドライドの検討 ・観光シーズン等における道路渋滞の情報発信	あきる野市・檜原村、西東京バス
		④交通事業者間の情報連携の推進（再掲） ・協議会等における情報共有・意見交換の実施 など	あきる野市・檜原村、JR、西東京バス、タクシー事業者
		⑤多言語対応 ・駅構内案内やバス停における多言語表記 など	JR、西東京バス
観光客に向けたモビリティ・マネジメント施策	⑥観光客に向けた公共交通利用のPR ・沿線PR施策 （観光資源情報を冊子にして無料配布、配布用駅発時刻表にバス停付近の登山マップを記載） ・HP・SNS（インスタ・ヤママップ等アプリ等）での発信（行政・会社） ・イベント実施主体と連携した公共交通利用のPR （観光情報発信媒体との連携等） ・エリア外都民へのPR （ラッピングバスのエリア外走行、五日市線以外のJR車内PR）	⑥観光客に向けた公共交通利用のPR ・沿線PR施策 （観光資源情報を冊子にして無料配布、配布用駅発時刻表にバス停付近の登山マップを記載） ・HP・SNS（インスタ・ヤママップ等アプリ等）での発信（行政・会社） ・イベント実施主体と連携した公共交通利用のPR （観光情報発信媒体との連携等） ・エリア外都民へのPR （ラッピングバスのエリア外走行、五日市線以外のJR車内PR）	あきる野市・檜原村、JR、西東京バス
		⑦公共交通利用の多面的効果の発信 ・環境改善に寄与、観光渋滞の軽減 など	あきる野市・檜原村、西東京バス

6. 計画の目標・施策

6-3.補助系統に係る事業及び実施主体の概要

系統	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行態様	事業主体	補助事業の活用
J R 五日市線	拝島		武蔵五日市	—	—	J R 東日本	なし
五10 数馬線 (五里・五滝10含む)	武蔵五日市駅	本宿役場前	数馬	4条乗合	路線定期運行	西東京バス	幹線補助
五18 藤倉線 (五里18含む)	武蔵五日市駅	本宿役場前	藤倉	4条乗合	路線定期運行	西東京バス	幹線補助
五15/檜52 上養沢線	武蔵五日市駅	十里木	上養沢	4条乗合	路線定期運行	西東京バス	なし
五14 払沢の滝線	武蔵五日市駅	本宿役場前	払沢の滝入口	4条乗合	路線定期運行	西東京バス	なし
やまびこ	笛吹・上平線	人里バス停	笛吹芝下	4条乗合	路線定期運行	檜原村(運行は交通事業者に委託)	なし
	神戸線	郷土資料館バス停	神戸園入口				
	泉沢・日向線	檜原村役場前	和田向バス停				
	藤倉線※	藤倉バス停	上白岩				

※やまびこ(藤倉線)は今後運行見直し予定

7. 計画達成状況の評価

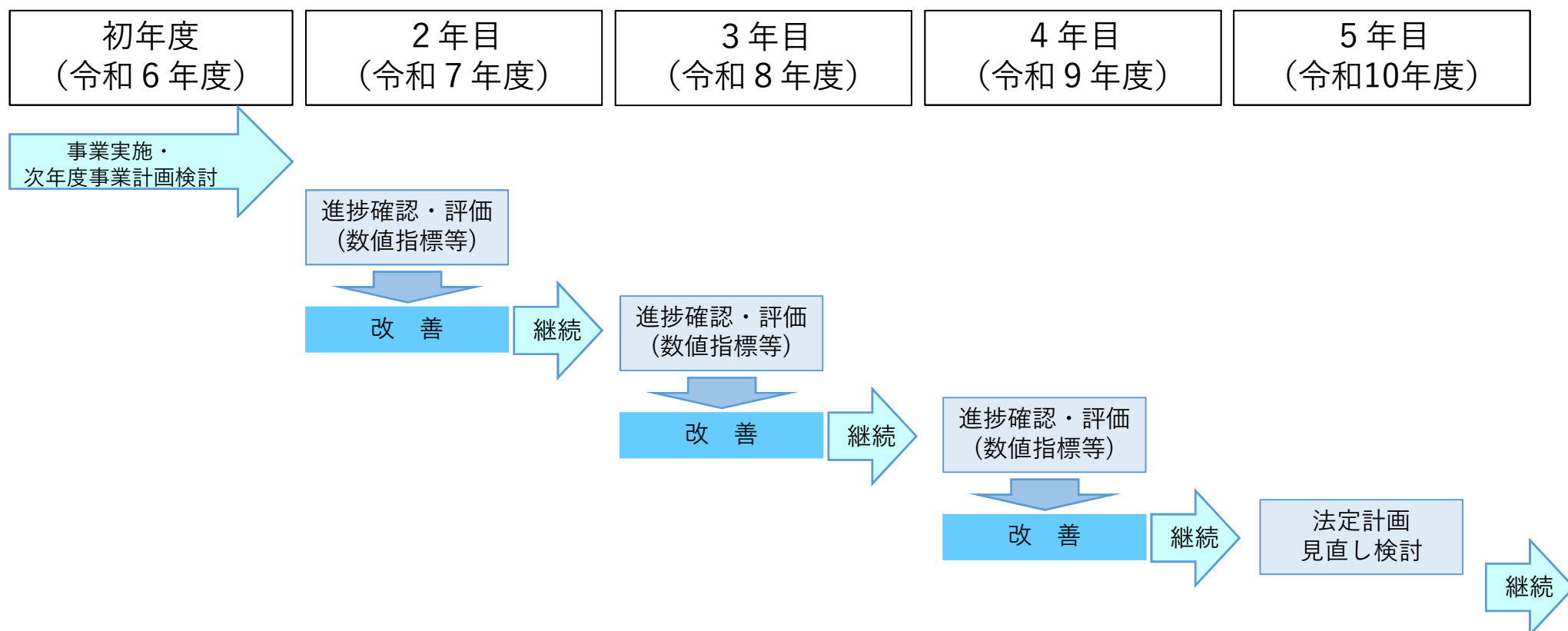
7-1. 計画の推進体制

- ・ 計画の推進及び進捗状況の管理は、あきる野・檜原地域公共交通活性化協議会が行う。
- ・ 本協議会では、P D C A サイクルに基づいて年度ごとに進捗状況を把握・評価し、計画が適正に実施されるよう関係機関との調整を行う。

7-2. 評価・検証

- ・ 各施策について、本協議会において年度ごとに進捗確認と評価を行い、適宜改善しながら継続していく。

計画達成状況評価の流れ



「2. あきる野・檜原の地勢・地理、社会経済状況」に関する参考資料

- ・地形条件
- ・年齢3区分別人口構成比の推移
- ・将来人口推計
- ・交通手段分担率（通勤目的、私事目的）

「3. 東京都、あきる野市、檜原村の上位・関連計画」に関する参考資料

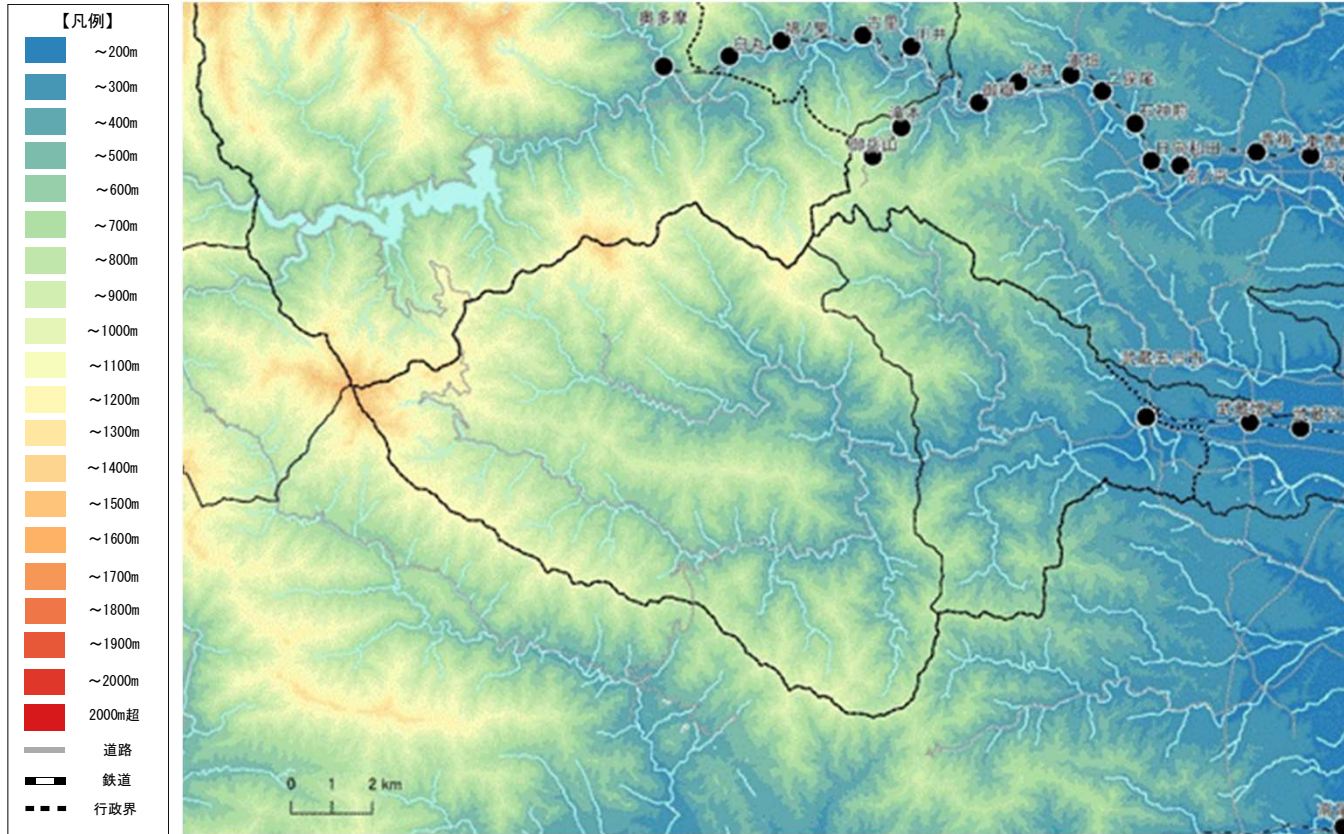
- ・該当計画の記載内容（概要）

「4. あきる野市・檜原村の地域旅客運送サービスの現状」に関する参考資料

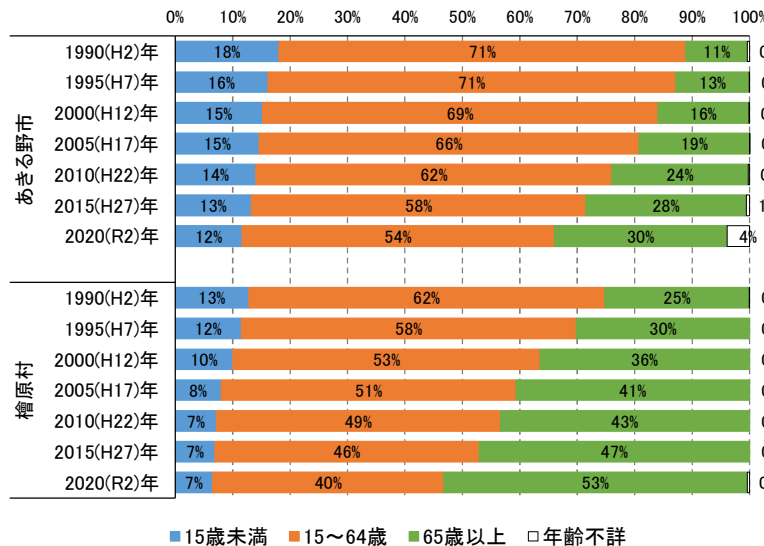
- ・鉄道とバスとの乗り継ぎ時時間
- ・バス路線の月別利用者数
- ・バス停別乗降者数
- ・デマンド交通やまびこ号の運行エリア

【参考】 2. あきる野・檜原の地勢・地理、社会経済状況

【対象地域の地形】

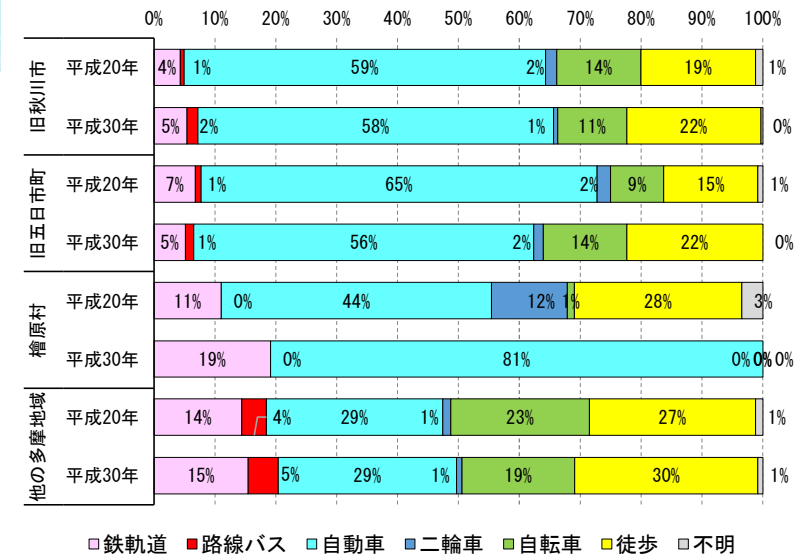


【年齢3区分別人口の推移】



資料) 国勢調査

【交通手段分担率（私事目的）】



資料) 平成30年東京都市圏パーソントリップ調査

【参考】 3. 東京都、あきる野市、檜原村の上位・関連計画（該当計画の抜粋）

計画分野	策定主体	計画名	記載内容(要約)
総合計画	東京都	「未来の東京」戦略 version up 2022	・区市町村等の取組促進策の充実(地域公共交通計画策定の促進、地域ニーズに応じた移動手段の導入促進) ・都と区市町村の連携による取組(広域連携、デマンド交通、地域の輸送資源活用、企業との連携)
		新しい多摩の振興プラン	・地域公共交通の基本方針を策定し、市区町村等を財政的・技術的に支援 ・デマンド交通等導入の支援、自動運転技術・MaaS等の支援策の創設等の検討
		東京都過疎地域持続的発展計画	・定期バスの時間短縮、走行性・安全性向上のための検討、改良 ・地域の実情に最適な交通手段を確保・維持するため、国の補助制度に沿った生活交通路線の支援
	あきる野市	第2次あきる野市総合計画	・公共交通の利便性向上や輸送力強化に向け、公共交通事業者への働きかけ ・交通手段をもたない市民などを対象とした移動手段の確保 ・駅周辺整備や公共交通機関の利便性向上、地域に適した公共交通の整備等
	檜原村	檜原村第5次総合計画(後期)	・利用者ニーズに合わせた運行形態の検討、バス利用のPR ・地域現況に応じた生活交通支援の検討(デマンドバス、乗り合いタクシー)、福祉モノレール改修など交通不便地域の移動手段確保
第2期人口ビジョン 総合戦略		・デマンドバス利用促進・路線バス利便性向上・利用者の要望等に合わせた運行形態検討・バス利用PR・交通不便地域や外出困難な高齢者の移動手段確保	
都市計画・まちづくり	東京都	都市づくりのグランドデザイン	・多様な交通モードと最先端技術を組み合わせ、誰もが移動しやすい交通環境を充実 ・生活の中心地周辺や拠点集落への居住の推進、土砂災害等のおそれのある区域での移転誘導等、日常生活の足が確保され、安心して暮らし続けることができる地域を形成
		都市計画区域の整備、開発及び保全の方針	・多様な交通モードと最先端技術、MaaS等の交通サービスを組み合わせ、誰もが移動しやすい交通環境の充実
	あきる野市	あきる野市都市計画マスタープラン	・多様な交通モードと最先端技術を組み合わせ、誰もが移動しやすい交通環境を充実。 ・公共交通の確保等の施策に係る地域公共交通計画の策定について検討 ・集約型地域構造への再編と地域公共交通政策との連携を目指し、地域公共交通計画や立地適正化計画の策定の促進策を検討 ・将来的な人口動態を踏まえつつ、集約型地域構造への再編と地域公共交通政策との連携
公共交通	東京都	東京における地域公共交通の基本方針	・駅周辺の整備、公共交通機関の利便性向上 ・五日市線の駅施設や運行体制の改善、複線化促進 ・鉄道やバス路線から遠い地域のニーズに対応するため、市内循環バスの運行継続、新たな運行手法の検討
		東京における地域公共交通の基本方針、及び未来の公共交通こどもアンケート	・広域的なネットワークは都と区市町村が連携し、関係者と議論しながら地域にとって望ましい姿を共有し取組を進める。 ・幹線系統の確保・維持に向け、都が主体となって関係者と共に課題解決を図り、国や区市町村等と連携して支援する。 ・確保・維持に課題を抱える幹線系統は、区市町村と調整の上、地域公共計画策定について検討を進める。 ・都として、政策的に確保・維持すべき幹線系統の検討を行う。 ・地域間ネットワークに必要な幹線系統の確保・維持 ・将来にわたり必要な幹線系統・生活交通の選定と維持 ・ラストワンマイルの移動手段の充実等
	あきる野市	あきる野市公共交通のあり方に関する提言書(あきる野市公共交通のあり方検討報告書に収録)	・大人になったときの公共交通の姿(小学生)として、新技術やユニバーサルデザインの導入への関心が高い。 ・公共交通を利用するようになる取組(中学生・高校生)として、料金や公共交通の利便性に対する指摘が多く挙げられた。 ・地域の実情や利用者の立場に応じた利用しやすい公共交通機関の導入 ・産業活動や観光等、市外からの移動需要を考慮したネットワークの構築 ・住民の公共交通運営への関与など、地域と一体となった取組 ・まちづくりと一体となった施策等、他の分野と連携した対策
	あきる野市	あきる野市の公共交通に関する市民アンケート調査結果	【新たな公共交通ネットワークのあり方】 ・道路幅員や需要に応じた様々な交通手段の複合的な組み合わせ ・交通結節点の整備による需要の集約化 ・利用者側である市民においても路線維持に向けた取組への協力が必要 【想定される検討・対策例】 ・免許返納後不自由が多いのでデマンド型は使いやすい。 ・バス電車でしる本数がちょっと少ない。 ・観光客による交通渋滞が市民生活を不便にし、観光客のリピーターも減らしている。車で行くという認識を変えて欲しい。 ・運転がもう少しやさしさがあっても良い。
観光振興	東京都	PRIME 観光都市・東京	・交通インフラなどの基盤整備の充実(シェアサイクルなどの実証実験と導入の取組、PRツールの作成の支援)
福祉	あきる野市	あきる野市地域保健福祉計画	・弘沢の滝周辺整備改定計画 ・外出しやすいまちづくり、交通手段の確保など、誰もが安心して外出できるまちづくりに向けた取組が必要
		第8期あきる野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画	・地域における福祉有償運送の必要性や安全の確保、旅客の利便に係る方策を協議するなど、福祉有償運送事業者へ支援
	檜原村	檜原村地域福祉計画【第4期】	・障がい者等が安全・安心に生活できる地域環境の形成に向け、利用しやすい交通機関の整備等を推進 ・デマンドバスや乗り合いによる外出支援の実施、福祉モノレールの改修・維持管理など交通不便地域の移動手段の確保 ・交通機関の割引等事業(障害者などに対し交通機関の割引等を周知) ・移動支援事業(外出・余暇活動等の外出に際し移動支援を実施) ・移送サービス事業(やすらぎの里の利用後、郵便局、農協等へ行きたい方に対し、役場まで送迎するサービスの実施) ・外出支援事業(福祉モノレールの改修・維持管理、路線バスやデマンドバスの運行のない地域での移動手段の確保)
環境	あきる野市	第二次あきる野市環境基本計画 改訂版	・路線バス等地域公共交通の確保 ・都道が途絶した場合の交通手段確保の具体的な体制確保の検討。 ・災害時の公共交通確保や緊急時の体制について運行事業者と協議。体制が不能となった場合を想定した災害復旧の検討
	檜原村	第2次檜原村地球温暖化対策実行計画	・移動手段の転換による二酸化炭素排出量の削減効果を周知し、公共交通機関等の積極的利用を促進 ・公共交通機関の利便性向上について、交通事業者との連携を継続 ・公共交通機関の積極的な利用 ・公共交通機関の利用促進
防災	檜原村	檜原村国土強靱化地域計画	・公共交通機関の割引等事業(障害者などに対し交通機関の割引等を周知)

【参考】 4. あきる野市・檜原村の地域旅客運送サービスの現状

【鉄道とバスとの乗り継ぎ時間】

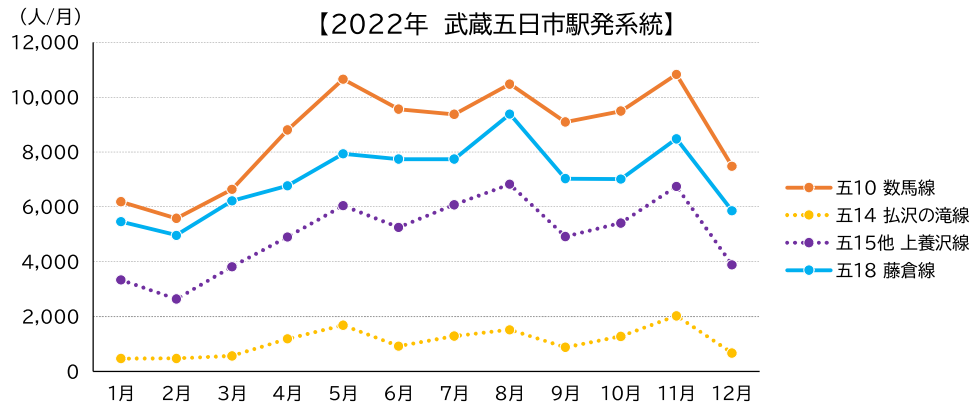
単位：分

	武蔵五日市駅			
	五日市線→バス		バス→五日市線	
	平日	休日	平日	休日
平均	6.2	9.3	13.0	12.0
最長	25	26	32	29
最短	3	3	3	3

資料) 各社時刻表を基に作成

【バス路線の月別利用者数】

【2022年 武蔵五日市駅発系統】

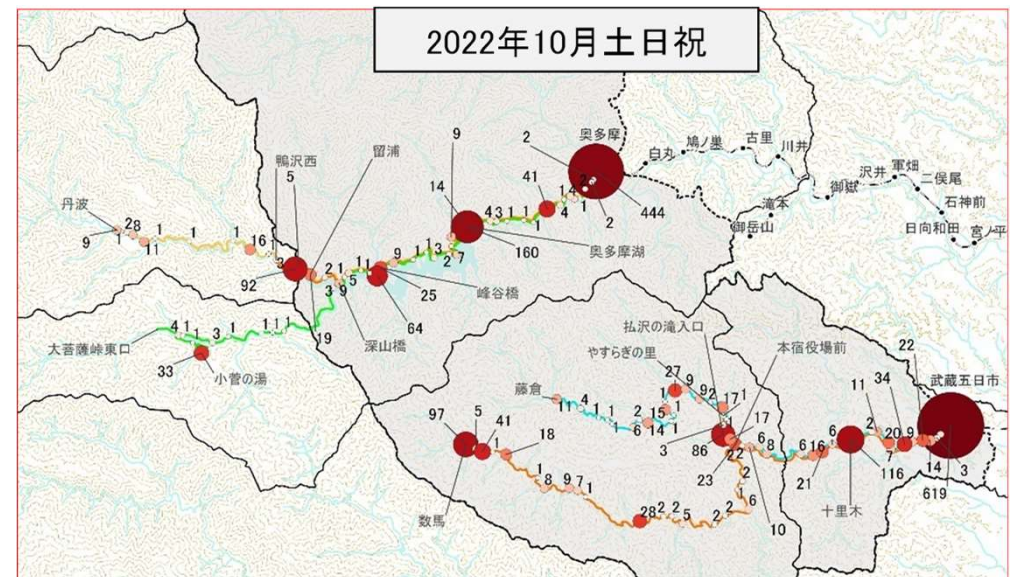


【デマンド交通やまびこ号の運行エリア】



資料) 檜原村ホームページ

【バス停別乗降者数】



資料) 西東京バス資料